

平成29年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200421	事業の開始年月日	平成24年7月1日
		指定年月日	平成24年7月1日
法人名	メディカル・ケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム藤沢片瀬		
所在地	(251-0032) 神奈川県藤沢市片瀬1-4-7		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果 市町村受理日	平成30年5月17日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

海も近く恵まれた環境の中で、穏やかに生活して頂ける施設だと思っております。若いスタッフが、多く外出レクにも力を入れております。日々の生活の中で入居者様には、出来る事をお手伝いして頂きながら、やりがいを感じて頂くように努めております。また、食事を楽しんで頂けるように寿司レクなどを開催しております

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3階		
訪問調査日	平成30年2月13日	評価機関 評価決定日	平成30年4月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR東海道線・小田急江ノ島線「藤沢駅」から徒歩約20分、江ノ島電鉄線「石上駅」からは徒歩約10分ほどの幹線道路から離れた閑静な住宅街の一角にあります。法人母体はさいたま市に本部を置き、多角的に福祉運営している株式会社です。

<優れている点>

地域と良好な関係を継続的に築き、地域に開かれたホームを目指しています。ホームの建物とフェンスに手作りの看板を掛け、地域の人々にその存在を知らせています。近隣住民は福祉相談に訪れ、ホーム夏祭りには多数参加しています。「一日十笑」をホームのスローガンとして掲げ、笑いが絶えない明るいホーム作りをしています。職員は日々、入居者に笑顔で語りかけることを心がけ、入居者の気持ちに寄り添って支援しています。笑いは健康効果もあり、認知症の症状の改善にも成果をあげています。

<工夫点>

職員の休憩、仮眠スペースを十分に設けています。休息できる環境を得られることで、職員はリフレッシュし次のケアに向かっています。緊急搬送時、災害時に持ち出すことが出来る入居者のコンパクトなファイルを作成準備する計画を立てています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	愛の家グループホーム藤沢片瀬
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・地域密着型施設として、事業理念を作成し実践に繋げるように努めています	法人理念をもとに、分かりやすく簡潔にという思いから「1日十笑」の行動目標（スローガン）を設定し、スタッフルームに掲示し、実践につなげています。職員自ら笑顔で入居者に接し、入居者の笑顔も増え、穏やかな落ち着いた生活ができています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・自治会に加入し、地域とつながりながら生活していけるように努めています	地域への働きかけから関係性が広がっています。地域防災訓練に入居者が数名参加し、地域祭りの神輿の来訪では、入居者がジュース、菓子の接待をしています。事業所の夏祭りでは近隣に案内を配布し、当日は子ども、大人50名程の参加を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・お祭りなど地域の方との交流で認知症の入居者とかがかわっていただいています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2ヶ月に一度運営推進会議を開催し施設の状況報告を行い、参加して頂いた方より、意見を頂き、サービス向上に活かしています	年6回開催し、家族6～7名、本部マネージャー、看護師が出席しています。毎月の写真入りの活動資料をもとに日々の様子、行事、ヒヤリハットの報告をしています。家族の要望により医療（往診・薬）の領収書だけではなく明細も記載しています。	自治会、行政からの出席が得られていません。開催日の工夫や参加要請の働きかけをさらに行うことが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・市担当者の方には、問題などが合った時に報告、相談しています	市の介護保険課に手続き、変更届け、運営推進会議録、毎月の活動報告を提出し、連携を取り、相談できる関係ができています。介護相談員2名が月1回訪問し、入居者の相談を聴き、事業所はその報告を運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・入居者の安全を考慮し夜間は玄関の施錠をしている。身体拘束については、事業所内での研修を実施し職員が理解できるように努めています	法人本部作成の「身体拘束マニュアル」をもとに、ホームでも認知症、身体拘束、問題行動の研修を年に数回行い、実践に役立てています。事務所の入り口には「入居者さんはおお客様です。その言葉遣いは、虐待ではありませんか。」の文言を掲示し、職員の言動について注意を促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・身体拘束同様、事業所で研修を実施し職員が理解できるように努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・権利擁護についても事業所で研修を実施し職員が理解出来るように努めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時に不安や疑問が残らず、安心して契約ができるように努めています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・ご家族様に年1回アンケートを法人よりお願いしている。結果が各事業所に配布される体制となっている為、それを元にサービスの向上に努めています	日頃から家族との関係性が保たれており週4～5名の訪問やクリスマス会、夏祭りに多数の参加、協力を得ています。出席の折には家族と交流をし、意見、要望を聞く機会としています。年1回の家族アンケートの要望から廊下の写真掲示を増やしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎月ユニット会議、全体会議を実施し、ホーム運営に関する職員の意見や提案を聞いている。また、職員向けにアンケートを実施しており、その結果を施設運営に役立てています	施設長と職員は良好なコミュニケーションが取れ、意見・要望が出しやすい雰囲気です。付箋を使った「一言意見感想」に職員が思いや意見を自由に書き、働きやすい環境作りや運営の改善につなげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・法人の就業規則に沿って運営しているが、職員がやりがいや向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人の開催する研修に参加するようになっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・管理者は、勉強会や研修会に参加するようにしている。職員においては、法人が開催する研修で職員の交流を勧めています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居される前に本人、ご家族にお会いしアセスメントを取らせて頂き、安心して頂けるように努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前の施設見学に来られた時より状況をお聞きし安な事、ご家族が困っていることを話して頂き安心して頂けるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・サービス利用開始前のアセスメントを元にカンファレンスを実施し必要な支援ができるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・人生の先輩として掃除等の家事を職員と共に行い一緒に暮らす者同士の関係を築くように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・施設での本人の状況を報告、相談しながら、家族に安心して頂けるように努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・入居される前からの友達が訪ねてこられたり、住んでいた家に行かれたりされている方がいます。今後も馴染みの関係が途切れないように支援していきます	友人、親戚、神父などの訪問があります。入居者の自宅帰り、墓参り、外泊があり、着物を着て結婚式に出席した事例もあります。事業所の車で外出し、江ノ島水族館、ミカン狩り、ショッピングモール散策、フードコートでの外食なども楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・職員が間に入り、入居者様同士がコミュニケーションが取れ、孤立しないように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・これまでの関係性を大切にし、必要に応じて相談や支援に努めています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日々の生活の中から本人の希望や意向が把握出来る様に職員は努めています	日々のケアによりホーム内は入居者の思いや感情が表れ、穏やかな雰囲気です。「朝は好きな時間に起きたい。」「好きな洋服を着たい。」などの思いを尊重し、寄り添っています。風呂や薬の拒否、部屋に引きこもる入居者にも時間をかけて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・本人、ご家族様、これまで利用したサービスの方等にお話をお聞きし、情報の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・入居者様の日々の状況を把握し、職員間で共有しケアに生かす様に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・本人がより良く生活出来る為、現状にあったケアプランを作成しています	3ヶ月に一度、サービス計画書、日課計画書を基にユニット会議でケアプランの見直しをしています。モニタリングの際は家族の意見や承諾を新たなプランに反映させています。できることは積極的に促し、本人の生活習慣を大切にしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・職員の気づき等カンファレスの際に情報共有し介護計画の見直しに生かしています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・入居者様の状況に合わせて個別レク等に取り組んでいます			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・散歩の時やドライブで欲しい物を買うに行くお店があり、生活を楽めるように支援しています			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・入居前より受信されていた医療からの往診を受けている入居者もおり希望を大切にしています	本人や家族の希望により、在宅当時からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援しています。提携医による定期的な内科、歯科の往診も実施されています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・毎週1回看護師の訪問があるので、その際、日々の様子、体調など報告、相談し入居者が適切な看護を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、その病院関係者と情報交換し、早期退院が出来る様に努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・重度化した場合や終末期のあり方については、入居契約時に、ご家族に説明をしています	入居時に「重度化した場合の対応にかかる指針」を説明し、同意を得ています。看取り介護は法人として行う方針を示しています。急変時には主治医、看護師、家族、職員が話し合い、入居者にとって最善の支援を選択しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時や事故発生時に対応出来る様に施設内研修を実施しています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・事業所内での避難訓練を実施しています。また、地域での訓練にも参加しています	定期的に避難訓練を実施しています。地域の訓練には入居者も参加し、高台への避難を体験しています。倉庫内には水、パン、缶詰、カレーなどを常備しています。備蓄品は法人本部が管理チェックし、ホーム内ではローリングストックを実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・人生の先輩として尊重し、誇りなど傷つけないように対応しています	職員は日頃から入居者のプライバシーや尊厳を損ねることのないよう注意し、言動に細心の注意を払っています。入居者の個人ファイルは事務所内の鍵のかかる書庫に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・ご本人の様子などから、希望や思いに気付いた時は、伝えて頂けるように努めます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・「買い物に行きたい」「散歩に行きたい」入居者の希望に添えるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・理美容の時など希望により、ヘアカラーやカットなど、おしゃれができるように支援しています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事の配膳や食器ふきなどの片付けなど職員と一緒にして頂いています。嗜好品(パン食や果物、アルコールなど)の提供は家族と相談して実施しています	1階、2階分を併せて調理しています。味付けや食の好み、嗜好品に関するアンケート、試食会を入居者や家族に実施する計画があります。入居者と職員はテーブルを一緒に囲み、談笑しながら食事を楽しんでいます。行事食も大切にしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事や水分の摂取量が一目でわかるように記録し状況に応じて確保できるように支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・食後に声かけし本人の力に応じた口腔ケアをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・チェック表に記録し排泄状況を確認しトイレへの声かけを行っています	排泄のパターンを把握し、入居者のサインを確認しながらさりげなくトイレ誘導しています。入居者それぞれが快適な状態で過ごせるよう配慮しています。夜間のみ、ポータブルトイレを使用している入居者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・個々の状態に応じて牛乳や乳酸菌入り飲料を取り入れて頂いています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・最低週2回の入浴を基本とし、ご本人の要望に応じて入浴して頂いています	入居者の希望による午前入浴、午後入浴を可能な限り叶えています。浴室は広々としており、壁に描かれた富士山の絵で銭湯気分を味わっています。脱衣場には各自の塗り薬の一覧が貼られ、個人別のヘアブラシも用意されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・安眠できるように、室温や照明など一人一人の状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の管理は誤薬、服薬忘れなどの間違いがないように注意し、服薬後の症状の変化については医療と連携を取り報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・入居者様により、毎朝パン食、就寝前に飲酒される方がおられます。このように気分転換できるように支援しています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・可能な限り散歩やドライブなどを嫉視しています。又、買い物を希望されている入居者様には職員が同行し自分で選んで頂けるように支援しています	川沿いの散歩道を入居者はよく歩いています。晴天の日には富士山を望み、川面に飛ぶ鳥を眺めています。近くのスーパーマーケットで買い物をしたり、イトインコーナーで休息する入居者もいます。江ノ島水族館やいちご狩りにも出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金に関しては事務所にて、お預かりしていますが、本人が買い物や外出などで欲しい物を購入出来る様に支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話ご自分でお持ちの方がいらっしゃいます。定期的にお手紙を書かれている方もいらっしゃいます		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・不安感や混乱を招くことがないように共有の空間は居心地よく過ごして頂けるように努めています	リビングにはレクリエーションで作った季節の作品を飾っています。入居者の行き交う廊下には大判の行事写真を貼り、訪問者と共に眺められるようにしています。一日の長い時間を過ごす共有空間は清潔に保っています。玄関は明るく開放的で、洗面の設備も整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・入居者の状況（相性など）を把握し居心地良く過ごして頂けるように工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・本人、家族に相談しながら、なじみの物で安心して居心地良く過ごして頂ける様に工夫しています	タンス、エアコンは設備されていますが、入居者は使い慣れたテーブル、椅子、テレビなどを持ち込み、思い思いに部屋作りをしています。壁には家族の写真や手芸作品を飾っています。職員は居心地よく過ごせるようアレンジを手伝っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・手摺りを使った廊下での歩行やお手伝い等、出来る事や解ることを生かして安全に生活出来る様に努めています		

事業所名	愛の家グループホーム藤沢片瀬
ユニット名	2F紙風船

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・地域密着型施設として、事業理念を作成し実践に繋げるように努めています		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・自治会に加入し、地域とつながりながら生活していけるように努めています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・お祭りなど地域の方との交流で認知症の入居者とかかわっていただいています		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・2ヶ月に一度運営推進会議を開催し施設の状況報告を行い、参加して頂いた方より、意見を頂き、サービス向上に活かしています		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	・市担当者の方には、問題などが合った時に報告、相談しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・入居者の安全を考慮し夜間は玄関の施錠をしている。身体拘束については、事業所内での研修を実施し職員が理解できるように努めています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・身体拘束同様、事業所で研修を実施し職員が理解できるように努めています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・権利擁護についても事業所で研修を実施し職員が理解出来るように勤めています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時に不安や疑問が残らず、安心して契約ができるように努めています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・ご家族様に年1回アンケートを法人よりお願いしている。結果が各事業所に配布される体制となっている為、それを元にサービスの向上に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・毎月ユニット会議、全体会議を実施し、ホーム運営に関する職員の意見や提案を聞いている。また、職員向けにアンケートを実施しており、その結果を施設運営に役立てています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・法人の就業規則に沿って運営しているが、職員がやりがいや向上心を持って働けるような職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・法人の開催する研修に参加するようになっています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	・管理者は、勉強会や研修会に参加するようにしている。職員においては、法人が開催する研修で職員の交流を勧めています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居される前に本人、ご家族にお会いしアセスメントを取らせて頂き、安心して頂けるように努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前の施設見学に来られた時より状況をお聞きし安な事、ご家族が困っていることを話して頂き安心して頂けるように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・サービス利用開始前のアセスメントを元にカンファレンスを実施し必要な支援ができるように努めています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・人生の先輩として掃除等の家事を職員と共にいき一緒に暮らす者同士の関係を築くように努めている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・施設での本人の状況を報告、相談しながら、家族に安心して頂けるように努めています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・入居される前からの友達が訪ねてこられたり、住んでいた家に行かれたりされている方がいます。今後も馴染みの関係が途切れないように支援していきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・職員が間に入り、入居者様同士がコミュニケーションが取れ、孤立しないように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・これまでの関係性を大切にし、必要に応じて相談や支援に努めています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日々の生活の中から本人の希望や意向が把握出来る様に職員は努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・本人、ご家族様、これまで利用したサービスの方等にお話をお聞きし、情報の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・入居者様の日々の状況を把握し、職員間で共有しケアに生かす様に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・本人がより良く生活出来る為、現状にあったケアプランを作成しています			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・職員の気づき等カンファレスの際に情報共有し介護計画の見直しに生かしています			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・入居者様の状況に合わせて個別レク等に取り組んでいます			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・散歩の時やドライブで欲しい物を買うに行くお店があり、生活を楽めるように支援しています			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・入居前より受信されていた医療からの往診を受けている入居者もおり希望を大切にしています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・毎週1回看護師の訪問があるので、その際、日々の様子、体調など報告、相談し入居者が適切な看護を受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時には、その病院関係者と情報交換し、早期退院が出来る様に努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・重度化した場合や終末期のあり方については、入居契約時に、ご家族に説明をしています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時や事故発生時に対応出来る様に施設内研修を実施しています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・事業所内での避難訓練を実施しています。また、地域での訓練にも参加しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・人生の先輩として尊重し、誇りなど傷つけないように対応しています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・ご本人の様子などから、希望や思いに気付いた時は、伝えて頂けるように努めます		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・「買い物に行きたい」「散歩に行きたい」入居者の希望に添えるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・理美容の時など希望により、ヘアカラーやカットなど、おしゃれができるように支援しています		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事の配膳や食器ふきなどの片付けなど職員と一緒にして頂いています。嗜好品(パン食や果物、アルコールなど)の提供は家族と相談して実施しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事や水分の摂取量が一目でわかるように記録し状況に応じて確保できるように支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・食後に声かけし本人の力に応じた口腔ケアをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	・チェック表に記録し排泄状況を確認しトイレへの声かけを行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・個々の状態に応じて牛乳や乳酸菌入り飲料を取り入れて頂いています		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	・最低週2回の入浴を基本とし、ご本人の要望に応じて入浴して頂いています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・安眠できるように、室温や照明など一人一人の状況に応じて対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の管理は誤薬、服薬忘れなどの間違いがないように注意し、服薬後の症状の変化については医療と連携を取り報告しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・入居者様により、毎朝パン食、就寝前に飲酒される方がおられます。このように気分転換できるように支援しています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・可能な限り散歩やドライブなどを嫉視しています。又、買い物を希望されている入居者様には職員が同行し自分で選んで頂けるように支援しています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・お金に関しては事務所にて、お預かりしていますが、本人が買い物や外出などで欲しい物を購入出来る様に支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・携帯電話ご自分でお持ちの方がいらっしゃいます。定期的にお手紙を書かれている方もいらっしゃいます		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・不安感や混乱を招くことがないように共有の空間は居心地よく過ごして頂けるように努めています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・入居者の状況（相性など）を把握し居心地良く過ごして頂けるように工夫しています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・本人、家族に相談しながら、なじみの物で安心して居心地良く過ごして頂ける様に工夫しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・手摺りを使った廊下での歩行やお手伝い等、出来る事や解ることを生かして安全に生活出来る様に努めています		

平成29年度

目標達成計画

事業所名 愛の家グループホーム藤沢片瀬

作成日： 平成 30 年 5 月 13 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議に於いて、自治会の参加がなかった	自治会の方に運営推進会議に参加して頂く	参加のお願いに再度伺う 自治会の行事に参加する	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月